



第2回 大橋川周辺まちづくり検討委員会 を開催



うっすらと雪化粧した大橋川のほとり

まちづくりについてこの考えを述べる

委員が主体となって
提案・検討

大橋川周辺のまちづくりや、景観・水辺の活用等について検討する第2回大橋川周辺まちづくり検討委員会を2月21日(火)に県民会館で開催しました。

今回の委員会では、今後委員会をどのように進めていくかについて、「事務局の提案に対して検討する方法」にするのか、或いは「委員が主体となって提案・検討する方法」にするのか、島田委員長の進行で討議しました。

「初めての試みに不安は感じるがやってみよう」、「事務局の提出する案を基に議論する方が良いのではないか」、「ワークショップ形式で検討できることに期待している」といった様々な意見があったものの、「委員が主体となって提案・検討する方法」で今後は進めていくことになりました。

作業部会を設置し
意見集約や提案等を行う

委員が主体となって提案・検討する方法が決まったことにより、委員の中の学識経験者を中心とした作業部会を設置し、委員会における様々な意見の集約や提案等を行っていく予定です。

まちづくりについて
色々な観点から想いを語る

続いて桑子委員を進行役に、各委員が大橋川周辺のまちづくりについての考えや大橋川への想いを述べるために、付せんに意見を書き込みました。それを地図の該当する場所に貼り、各委員にその意見を詳しく述べてもらいました。

意見を共通の項目毎にまとめてみると、水辺の美しさや、松江らしさ、歴史・文化・風土等に関するものが多くありました。この意見を作業部会で集約し、今後委員会で検討していく予定です。

資料の閲覧場所

- 大橋川コミュニティセンター
 - 松江市大橋川治水事業推進課
 - 島根県斐伊川神戸川対策課
 - 国土交通省出雲河川事務所
- <http://www.mable.ne.jp/~comisen>



第2回「大橋川周辺まちづくり検討委員会」の様子

第2回 大橋川周辺まちづくり検討委員会

大橋川周辺のまちづくりや、景観・水辺の利活用等について検討するにあたり、まちづくりについての考えや大橋川への想いを述べてもらうことから始めました

■ 想いを付せんに書き込む



各委員は、まちづくりについて様々な意見を付せんに書き込みました。

■ 付せんを図面に貼る



委員は、意見を書いた付せんを図面に直接貼っていききました。

■ 意見を集約する



委員が貼った付せんの中から共通する項目を集約し、特徴をまとめました。

■ 詳しく説明する（意見交換）



各委員に大橋川周辺のまちづくりについて、色々な観点から述べてもらいました。

各委員の意見として付せんに書き込まれた内容を共通の項目毎にまとめ、掲載したものです。これらの意見等を参考にして、大橋川周辺のまちづくり等について検討していきます

歴史

- 松江開府 400 年の歴史を残すべきである
- 城下町の地図と重ねて、都市の全体像を理解して取り組もう
- 城との関係を意識できるように

松江の象徴

- 県都としての風格と、観光地としての景観評価が高まるような橋・堤防・道路の形状が重要
- 橋詰めに広場が重要
- 松江大橋は現状のままであって欲しい
- 松江大橋は大事にしたい
- 松江大橋（現在の）の歴史を残すこと（はりまや橋の事例）

- 大橋の形状・デザイン・遊歩道・中央部分を広く
- 大橋・新大橋を回遊できる歩道を設置
- ヤナギ並木
- 川岸に 2 車線以上の道路がないこと（守るべき点）
- 新大橋のデザインの見直し
- 木が少ない もっと緑を

新たに作る

- リバーウォークができる歩道づくり
- 水辺のイベントスペース、野外ステージなどのにぎわい空間
- 舟溜り整備
- 川沿いには遊歩道（ジョギング道路）
- 遊歩道（橋の下をくぐる）がほしい
- くびき大橋から中州にのり道
- サイクリングロードなどの市街地にない魅力の創出

中州

- 中州をできるだけ治水に役立てる
- 中州は遊水池としての機能保全
- 中州の水郷風景保全
- 湿地の維持・保全
- 生態系保全（微生物・植生・魚・鳥など）
- 中州のピオトープ機能の向上
- 植物・生物に関する学習の場
- 中の島の残地活用として、自然観察スポットとして環境教育に役立てる

景色の見え方・見せ方

- 大山隠岐国立公園を意識した景観づくりをする
- 公園が庭園みたい松にこだわらないこと憩いの場に
- 広さ、ゆったりとした風景が必要
- この際、川沿いからなくしたいものを消す
- 対岸の見え方を意識するマナーが必要

- 船を 街を眺める
- ボート部の練習が見たい

川を楽しむ

- 泳ぎたい かつてのように
- 釣りしたい かつてのように
- 水上スポーツなどが楽しめる
- カヌー・レガッタ・ボート
- 世界大会・全国大会の開催地として海、川の利用を考える

その他

- 中海とのつながりを意識できるように一体の空間として扱う
- 鳥類に関する学習の場
- 環境学習都市松江を目指す
- 必ずしも市民全体が宍道湖・大橋川周辺の景観を重要視しているとはかぎらないと思う 今回の課題をチャンスととらえ、市民意識の向上につなげることが大切



治水

- 浸水の可能性を前提とした街づくりの研究
- 現状を出来るだけいじらない
- 治水計画を推進する前提条件として、街全体の景観に配慮が必要
- 治水の工法としては、鴨川のように洪水時だけ流れる低地帯を造ることで、大橋川の生態系が維持できるのではないかと考える

松江らしさの集積

- 灯籠流し
- 朝霧に浮かぶシジミ舟
- 改修を契機に、松江の伝統産業であるお茶・菓子店と、神社・仏閣等、松江らしさを出したまちづくり
- 寺町と水辺の関係を密にしたい
- 柵・手摺に頼らない安全
- 如泥石と云われる波消し石のような伝統護岸
- 川沿いの景観を大切に

- 大橋川の風情を大切に
- 松江夜曲の面影を残して欲しい
- ラフカディオハーンの見た風景
- 「松江らしさ」
 - ・ 恵まれた自然景観
 - ・ 江戸時代以降の歴史・文化の維持
 - ・ 人工物を出来るだけ排除する方向で環境との調和
- 引きついできた文化や景観だけでなく、今生きる人々の作り上げるものも重要

水辺の美しさ・水辺の近さ

- 水面との近い関係保持
- 水辺をできるだけ歩ける空間にする
- 目線と水面高が近い点
- 舟からの景観による景観規制
- 川岸から 2 ブロック下がって水辺が見える
- 濠（堀川）と一体の護岸デザイン
- 住民が水と親しむいいこの場

- 街と水辺の一体感
- 水辺の近さ
- 日本一きれいな水の都とする
- 水辺の美しさ
- ゆるやかな斜面
- 水質向上
- ある時は 右→左、ある時は 左→右、この不思議な大橋川

まちづくり

- 我々が真にほこれるまちにするために！宍道湖や大橋川をどのように利用するのか
- 治水やそれに伴う様々な議論をふまえ、それに関わる事だけでなく、このまち全体がどうあるべきかを考える機会になれば良い
- 耐水性と親水性を上手に調和させた街づくり
- 国際文化観光都市にふさわしい特性と安らぎを備えた街づくり

- 公共交通優先のまち
- なしくずしの乱開発に規制を地区毎の用途別建物規制を
- ゾーニングの手法 2005年6月より施行された「景観法」による生活環境の保存眺望権、日照権を保持できる条例の制定
- 街区単位で考えたい

歴史・文化・風土

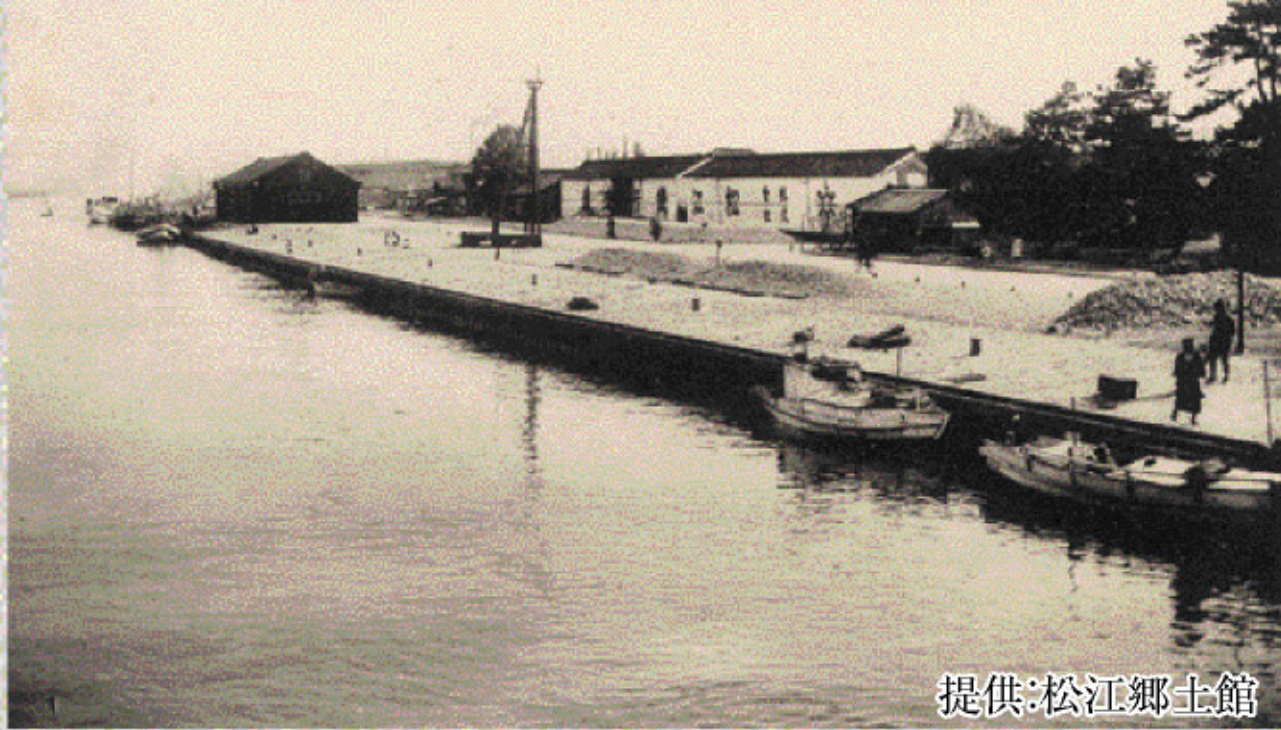
- 遠くに見える大山
- ホーランエンヤ
- ホーランエンヤは永遠に（12年に1度）治水対策の上、1945年前後の姿に戻す（古事記の時代とは言わないが）
- ゾーニングの手法 2005年6月より施行された「景観法」による生活環境の保存眺望権、日照権を保持できる条例の制定
- 街区単位で考えたい

- 歴史・文化に関する学習の場
- 樹は切らない
- 神社・仏閣はできるだけ存続周囲の風土と一体
- 風土記に思いをはせる景観の保持
- 神社と水面の関係
- 矢田の渡し 出雲国風土記
- 生活基盤の維持
- 赤瓦集落

大橋川の今昔

大橋川の見慣れた風景も時代と共に少しずつ姿を変えてきています。
「大橋川の今昔」では、大橋川沿川の移り変わりをお宝写真と共に紹介しています。

昭和8年 売布神社付近の松江港



提供:松江郷土館

大橋川の舟運 繁栄を現す松江港築港

上段の写真は、昭和8年頃の松江港の様子です。

写真右側の樹木は、売布神社の境内のもので、現在も当時と同じ様子を見ることができますが、新大橋の姿は未だ見ることは出来ません。

松江港は、昭和3年8月から改修工事に取り掛かり、昭和7年11月に完成しています。当時、イギリス製の矢板を打ち込んで造られ、平成10年から14年にかけて行われた改修工事まで、約65年間利用されました。

現在の様子



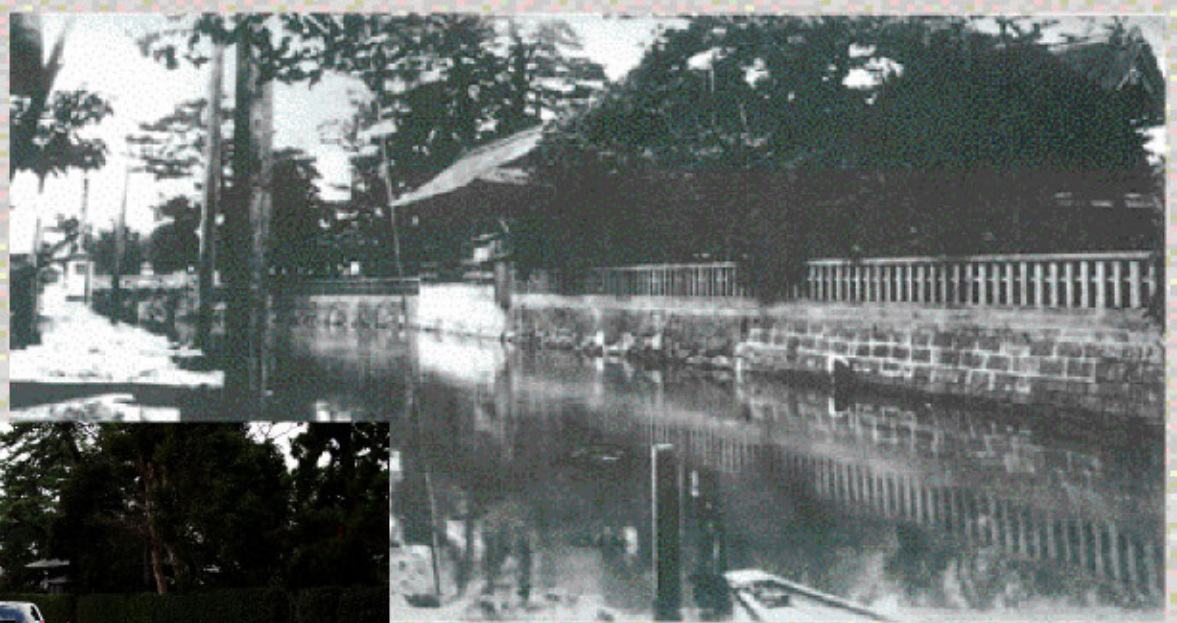
現在の松江港は、当時より約1m程沖に矢板を打って改修されたもので、イギリス製の矢板は、今でも公園の足元に埋まっています。

松江港築港より1年後の昭和8年、現在の新大橋通りである和多見川が埋め立てられ、翌昭和9年に現在の新大橋が竣工を迎えました。

舟運が盛んであった頃、松江港は、宍道湖、中海を結ぶ大橋川の拠点として多くの人が利用し、賑わっていました。

現在でも、観光遊覧船の乗り場として利用されている他、荷物運搬用の船が着く等、生活の一部として利用されています。

埋め立て前の和多見川



提供:松江郷土館

新大橋通りは 和多見川の埋め立て

現在の新大橋通りは、昭和8年に和多見川を埋め立てて造った道路で、当時としては幅の広い近代的な道路でした。

和多見川は、大橋川と天神川を結ぶ堀川でしたが、埋め立てにより幹線道路として利用されるようになりました。



◀現在の様子

大橋川コミュニティセンター

[開館日] 年中無休(年末年始除く) [開館時間] 9:30~16:00 [駐車場] 5台程度
〒690-0841 松江市向島町134-1
TEL(0852)28-3621・3622 FAX(0852)28-3623
E-mail:comisen@mable.ne.jp
ホームページ: <http://www.mable.ne.jp/~comisen>



*大橋川コミュニティセンターは、松江市と島根県、国土交通省出雲河川事務所が一体となって管理・運営をしています。

周辺案内図

